

柳川郷土研究会  
会誌「水郷」付録

すいきょう

# 瓦版

発行所 柳川郷土研究会  
柳川市本城町 113-1

発行人 武松 豊  
編集責任者 金子俊彦



## 土竜(もぐら)の唄き

「戦艦大和の最後」が出版された。東大  
 在学中に学徒動員令よって海軍に入隊  
 し、奇跡の帰還をされた吉田満氏の著  
 である。  
 も猛烈な攻撃を行う敵機によって戦友  
 も艦も無残な状態になるが、飛行機に  
 よる戦艦攻撃は日本海軍が先駆けた戦  
 法である。マレー沖においてイギリス  
 の最新鋭戦艦プリンス・オブ・ウエル  
 スと旧式戦艦レパルスとを撃沈したが、  
 べて航空機によるものであった。敵艦を  
 撃沈したあと帰路につく飛行機は両軍の  
 死者を悼み翼を振りつつ去った。さらに  
 翌日偵察にきた飛行機からは敵味方の死  
 者のため二つの花束が落とされた。また  
 沈没する戦艦から海に飛び込んだ乗組員  
 を救助するため従属していた駆逐艦に  
 は一切攻撃はしなかつた。大和の救助  
 率は差がこれを実証している。当時、日  
 本には武士道が生きていたのである。日  
 本人とみたら殺したアメリカ人の差を  
 感じる。

戦艦大和に座乗していた伊藤整一司令  
 官の行動をみても古武士を感じさせる。  
 ところで若い士官たちは、「この戦争は  
 道を誤っている。いずれ敗北せざるを得  
 ないだろう。しかし、それから立ち上が  
 る日本は素晴らしい国作りをするに違  
 ない。我々は、その礎になろう。」と話  
 し合ったとのことである。敗戦後、経済  
 興隆は実現したが、心の問題は死者に申  
 し訳ない実情である。もう一度、武士道  
 精神をとり戻したいものである。(土竜)